総合演習　授業案

授業タイトル　：ミッションを解き明かせ!!　～コミュニケーションを深めよう～

子供の設定：

●地域の特徴
場所は首都圏である東京都。学校の近くには自然が少なく、高層ビルに囲まれており、地域の方などとコミュニケーションを取る機会が少ない。

●学年
第６学年

●子供達の構成
５年生からの持ち上がったクラスである。人数比は男子２０人女子１０人である。家族構成としては、一」人っ子・核家族で育った児童が多い。クラス内には、障害のある子や異文化を持った子はいない。特定の児童に対して、深刻なイジメがある。(※今回の授業計画の６回目までにイジメが克服されている想定である。)クラス目標を「六の二　みんな　仲間」とし、４月にクラス全員で決めたもので、共通理解はできている。

教師の問題意識：

教育問題の一つである“いじめ”や“暴言”といった行為は年々増え、エスカレートしている。実際、クラス内においてもイジメが目に見える形で現れている。私は、コミュニケーションの希薄化が児童において大きな影響を及ぼしていると感じている。その結果、相手のことを思いやれず、自己中心的な考え方・行動が見受けられる。これらを打開するためには、相互理解が不可欠であり、そのためには、積極的に相手と関わる姿勢を育てる必要がある。なぜならば、自者と関わらなければ相手との距離は縮まらないからである。その際も、お互いに心を開き、本音を言い合える環境でなければならない。このような問題意識を出発点に、子どもたちが互いに相手と関わることの大切さを学べる授業を行う。

授業目的：

・グループワークを通し、自分も他者もクラスの大切な仲間の１人であると感じられる人間関係を築き、各自の居場所を見つけられるようにする。

子供達の到達目標：

・友達の失敗に共感でき、失敗を受け入れていくことができる。
・困っている人がいたら声をかけたり手助けしたりすることができる。
・何事にも「できない理由」を探すのではなく、「できる方法」を探すようになる。
・固定したグループ間の壁が崩れ、グループにこだわらずに交流できるようになる。
・アクティビティーを通し、各々が自分の感情・様子・役割などを友達に伝えあうことができる。

授業計画　：第１回～第７回は全て【人間関係】をキーワードに構成している。

授業回数	テーマ	各授業での子供達の具体的な達成目標
1	フルバリュー・コントラクト	フルバリュー・コントラクトについて理解し、説明できる。
2	人との距離感	自分の心の壁が崩れ、どの子とも進んで関わろうと行動をとっている。
3	チャンレンジバイチョイス	自分自身で意思決定し、自分が決めた目標に挑戦しようとしている。
4（連続）	ジョハリの窓	友達との関わりを通し、新しい自分の可能性を挙げることができる。
5（連続）	みんな違ってみんないい	友達の長所・短所を理解し、多くの友達と交流する姿勢をとっている。
6（本時）	コミュニケーション	積極的に交流しようと自分から行動をとるようになる。
7（連続）	お互いの気持ち	人の意見も聞き入れた上で、自分の考えを相手に伝えることができる。

※４―５回、６－７回は連続授業とし、６回目には『ミッション』の活動、７回目にはフィードバックを行う。

本時の授業でのポイントや指導上の注意点：。

・仲間と協力しないと達成できない課題を与え、児童同士がお互いの持っている力を出し合って、課題を達成していくことで、互いに共感し、チームとしての意識を芽生えさせていく。
・大勢のチームで取り組めるようにし、児童たちが笑顔で活動できる空間をつくる。
・みんなが心の底から授業に参加し、楽しめ、学べるために、フルバリューコントラクト（コミットメント）の考え方を随時伝えていく。(※児童には導入で約束をさせる)

教師自身が展開する上でのチェックする項目：

・授業の中でアドベンチャーと思われる部分は組み込まれているか
・フルバリューコントラクトの確認はされているか
・体験学習法に基づいてフィードバックが行われているか
・ファシリテーションスタイルは正しいか

授業方法：

冒険教育を主とした体験学習のプログラム、通称 tap（玉川アドベンチャープログラム）を取り入れるのは、アクティビティーを通して、仲間との関わり方・接し方、仲間の大切さを学ぶことができるからだ。それは、仲間と協力しないと達成できない課題を与えられるので、自分自身と他者の存在を‘なくてはならない唯一の存在’と認めることができるのである。ふりかえり(フィードバック)も大切にし、お互いに意見交換をし、自分が何を感じ、何を考えたのか、仲間はどんなことを感じていたのかを発表し、気持ちや感情を言語化する方法を学べる。また、そのような互いの感情を分かち合うことで、共感が芽生え、互いのつながりに発展していくからである。

本時の授業　：

流れ	教師の指示内容	教師の動き	時間
導入 〔ウォーミングアップ〕	〔確認〕 これから総合の授業を始めます。今月は「人間関係」をテーマに様々な活動をしてきましたね。今日の朝自習の時間に配ったプリントで理解が深まったと思います。今日も活動に入る前に、みんながどれくらい一生懸命頑張ろうとするか確認したいと思います。いつものように、やる気がある人は指を上を、やる気がない人は指を下にして、示して見せてください。 周りのお友達を見てください。(※状況にはよっては、やる気のない児童に問う）みんなの気持ちがよく分かりました。一生懸命頑張ろうとすると約束したからには、みんなで！楽しく！協力して！やることを忘れずに参加ください。みんな、いいですか。	・スタートはグループごとに集まって座っているようにさせる。 ・教師が指の動作をする ・やる気がない児童がいた場合、理由を問う。場合によっては、一時的にやりたくなるまで見学させる。 ・５回目の授業でグループを分けておく	3分
展開Ⅰ （インストラクション）	〔作業指示〕 さぁ、それでは活動に参加します。今日は前回お話したように各グループでミッションを解いてもらいます。前回休んでいて分からない人は、お友達に聞いてください。指令書にも説明が書いてあるので、今は省きますが必ずルールを全員で今一度確認をしましょう。それでは、各グループ、封筒を取りに来て下さい。まだ、封筒は開けずに先生におへそを向けて座っていましょう。 〔配布〕 では、ブルーシートの上で各グループ始めてください。	・理解していない児童がいれば、フォローをする。 ・ミッションカードを配布する ・15 分たってもミッション１を解くことができない場合は、ミッション２に移るように指示をする	2分

展開Ⅱ （イニシアチブ）	〔ミッション１〕（１枚目） リンゴチームは「六の二」、バナナチームは「ミンナ」、ミカンチームは「ナカマ！」を各チーム全員で人文字を使って表現する。床にねそべって表現する。 〔ミッション２〕（２枚目） ・３チーム協力しないと解けない。１枚目のカードの人文字を指定された順番で表現する。クラス目標のワードである「六の二　ミンナ　仲間」という文字が完成する。その後、ミッションカードにも書いてあるように、みんなで声をそろえてこの言葉を言うことでミッションクリアとなる。	・教師は児童の様子を観察する。 ・どうしてもミッションカードを解読できない場合は、アドバイスをする。 ・ミッション達成かそうでないかの判断を場合によっては学生スタッフとともに行う。 ・完成したものを写真に収めて、次の時間のフィードバックの時に全員で見られるようにする。 ・できなかった場合でも、アクティビティーは終了させる。（できた場合はすぐにフィードバック）	２５分
まとめ （シェアリング）	〔フィードバック〕 各グループで円になって座ってください。おへそは先生へ向けます。それでは、今日の活動の中をフィードバックしていきます。まず、クラス全員に聞きます。今日の活動を楽しめたと人は指を上に、楽しめなかった人は指を下にして示してください。周りのお友達で確認してください。 では、これからグループで意見交換をしていきます。「この場面すてきだったな」「この人の一言よかったな」などと感じた瞬間があったと思います。脳には記憶という形でたくさんインプットされています。もし、今日の活動をタイムスリップして、写真に残すなら、どの場面を選びますか。理由と共に言ってください。 ・難しい交差が解けた時　・△君が応援してくれたこと 様々な意見が出ました。今日、授業の最初に話したコミュニケーションで思い浮かべたことを活動の中で何か行いましたか。みんなは積極的に活動に参加し、友達と関わりましたね。是非、今後の学校生活でも忘れずいてください。５時間目では、今日の活動を通して何を学んだのかみんなで意見を出し合っていきましょう。では、休憩。10 分後この状態で待機していてください。	・児童の様々な良い部分をお互いに言い合えるように、表情・声のトーンなどに気をつけて話す。 ・教師が指の動作をする ・楽しめなかった児童がいた場合、理由を問う。そして、周りの友達にその児童の良かった活躍を聞く。 ・チームごとに円になって話し合う。 ・用紙への記入は５時間目に行う ・時間をしっかりと使うように進行は教師や学生スタッフが行う。	１０分

評価：

・積極的に活動に参加し、「できる方法」を協力して探すことができた。
・失敗しても、励ましあえ、自他の失敗も受け入れた上で、次のステップに向う。
・アクティビティーを通し、各々が自分の感情・様子・役割などを友達に伝えあうことができた。

参考文献：

『アドベンチャーグループカウンセリングの実践』　ディック・プラウティー著　伊藤稔（訳）　PAJ 1997
『対立がちからに』　ウィリアムズ J.クレイドラー著　PAJ 2001